

研究主題

社会の変化に対応する望ましい修学旅行の在り方の研究
 ー 豊かな人間性と人間関係を育む安全な修学旅行 ー

修学旅行特別委員会

1 はじめに

指導要領では、「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことを目標としている。

特に、旅行・集団宿泊の行事においては、「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」としている。

県下の中学校の修学旅行では、分散学習や体験学習を取り入れ、望ましい人間関係を育みながら社会性や豊かな情操を育成するために多様な活動を取り入れてきた。しかし、新型コロナウイルスのまん延や東日本大震災以後、それらの学習を実施する上での安全対策の在り方が大きな課題となってきた。

そこで、本委員会では、全県で実態調査を実施し、「豊かな人間性と人間関係を育む安全な修学旅行」という視点から、望ましい修学旅行の在り方についての研究を進めた。

2 調査・研究

県内の全市町村立中学校に約30項目の調査を依頼し、修学旅行の実態を把握し、その内容を検討する。実態調査は7月上旬にアンケートを依頼し、夏季休業中に実態をまとめ、分析・研究を進めていく方法を採用した。(修学旅行実施校：平成22年度406校、23年度409校、24年度410校)

(1) 主な旅行地

(表1) 平成22～24年度の主な旅行地 (校数)

	平成22	平成23	平成24
東京	386	124	391
横浜	80	35	103
富士五湖	86	41	99
千葉房総	37	7	34
伊豆	60	23	62
大阪	15	269	13
神戸	12	253	13

過去3年間の主な旅行地の推移を見ると、平成23年度は東日本大震災の影響から、多くの学校が関東方面から関西方面に行き先を変更して修学旅行を実施した。平成24年度には、多くの学校が従来どおり関東方面に旅行地を戻していることが分かる。

(2) 分散・体験学習

ア 東日本大震災の影響

(表2) 分散・体験学習の実施状況 (校数)

	平成22	平成23	平成24
分散・体験ともに実施	281	206	250
分散学習だけ実施	106	129	118
体験学習だけ実施	18	45	35
どちらも実施しない	1	29	7

平成22年度からの変化を見ると、23年度は、3月11日の震災から約1か月の間に行き先を変更したことから、分散・体験学習の場所の選定や準備・確保が十分できなかった。同時に、その学習を実施する上での安全面の確保に課題が見られた。(表3)の課題からも学校が苦慮したことが分かる。

(表3) 分散・体験学習での実践時の課題（平成23年度調査から抜粋）

- 東日本大震災による、行き先変更の最終決定が4月初めとなった。下見をしてから計画づくりを行った。そのため実施1か月前からの取り組みになった。
- 急な行き先変更で、事前学習が不足し、出来合いのコースにせざるを得なかった。
- 急な変更で、訪問可能な事業所などの資料準備が不十分だった。
- 震災があり、海関連の体験活動を取りやめた。
- 防災・安全対策について話し合い、場面に応じた対応の仕方を学習する取り組みにも時間をかけたい。
- 分散学習時の危機管理マニュアルを、より一層生徒に徹底していくことが求められる。

イ 豊かな人間性と人間関係の育成

平成23年度は東日本大震災の影響があって、急な行き先変更や日程変更があり、教師主導の分散・体験学習となった学校もある。しかし、多くの学校が生徒主体の修学旅行を実施できるよう努力している。

事前学習ではグループ内の役割分担を行い、互いに協力して目的が達成できるように準備を進めている。相手先への連絡、交渉、確認、当日の訪問先への移動、挨拶、やり取りなどにおいて、事前学習を基にした分散・体験学習をさせている。そして、修学旅行後はそれぞれの活動をまとめ、学級や学年での報告会を実施している学校が多くある。2年生をその発表会に参加させ、次年度の意欲付けに役立てているという学校も報告されている。

分散・体験学習に取り組む姿勢は、(表4)のように回答されている。「意欲的」「まずまず意欲的」という学校が99%以上であり、上記の一連の活動が豊かな人間性と人間関係を育てているものと確信している。

(表4) 分散・体験学習の取り組み状況（校数）

	平成22	平成23	平成24
意欲的	226	222	243
まずまず意欲的	177	157	158
それほど意欲的でない	3	1	2

(3) 安全な修学旅行

(表5) 修学旅行全般での安全に向けての工夫・改善・反省（平成24年度の調査から抜粋）

- 安全対策について、保護者に詳しく説明した。
- 生徒の動きに合わせて緊急避難場所を確保し、保護者にも詳しく知らせた。
- 下見の際に、避難所の確認が必要であった。
- 台風など気象条件が急変した際の連絡方法や計画変更について、課題が生じた。
- 地震発生時の対応の仕方を再検討したい。
- 途中での帰校、地震などの際に使うことのできる保険を検討した。
- 天候が心配される際、体験学習を実施する上での決定権を明確にした。

これ以外に、引率・下見の人員の予算増額を多くの学校が挙げている。地震等防災・事故防止対策等をより確かなものにし、安全な修学旅行にしたいという願いからである。

3 おわりに

「朝早い時刻にバスで三河安城駅へ出発しました。楽しみにしていた修学旅行。計画は4月の初め頃からしました。係に分かれて、僕は実行委員として、しおりの製作などをしました。…修学旅行のすばらしい思い出。その後、グループでまとめと発表をしました。」

上の生徒の卒業文集を見ると、部活動の次に多いのが修学旅行の内容である。その期間は2泊3日と短い、その準備段階から生徒は修学旅行に心を弾ませている。豊かな人間性と人間関係を育み、安全な修学旅行となるよう、目の前の課題を克服していきたい。